

2007 環境活動レポート

活動期間： 2007年5月21日～2008年5月20日
作成日： 2008年8月29日

目次

1. 環境方針	2
2. 会社概要	3
3. 環境目標と実績	4
主要な環境負荷の実績	4
過去3年間の二酸化炭素、廃棄物排出量、総排水量	4
製品製造量当たりの排出量	4
2007年度環境活動計画	5
2007年度削減目標	5
2007年度実績概略	5
2007年度活動実績及び評価	6
① 電力使用量の削減	6
② 自動車燃料使用量の削減（ガソリンと軽油）	6
③ 都市ガス使用量の削減	6
④ 上水の使用量の削減	7
⑤ 産業廃棄物の削減	7
⑥ コピー用紙使用量の削減	7
⑦ 一般廃棄物の削減	8
⑧ 化学物質管理9ポイントの100%達成	8
4. 環境関連法規制及びその他の要求事項の順守状況	9
環境関連法規制に関して	9
関係機関等からの環境関連法規制に関して	9
5. 適用範囲	10
対象組織	10
対象活動	10
対象要員	10
サイトの概略	10

1. 環境方針

環境理念

当社は、環境活動を経営の最重要課題の一つと位置付け、環境への取組と環境負荷の削減に努め、持続的発展が可能な社会の構築に貢献します。

行動方針

当社は油圧・電子制御機器の設計・製造・販売の事業活動を通じて次の項目に取り組めます。

- (1) 環境関連法規制を順守します。
- (2) エコアクション21環境経営システムを構築・運用し、継続的改善と汚染の予防に努めます。
- (3) 事業活動全般における環境負荷を削減するために次の活動に取り組めます。
 - 1. 省エネ
 - 2. 廃棄物の分別の徹底と削減
 - 3. 紙資源の節約
 - 4. 水資源の節約
 - 5. 化学物質の管理の徹底と使用量削減

この環境方針は全従業員に周知するとともに社会にも公開します。

2005年9月5日

マロール株式会社

代表取締役社長 兎田 朗彦

2. 会社概要

I. 事業者名及び代表者名

マロール株式会社 代表取締役社長 兎田 朗彦

II. 所在地

〒653-0037 神戸市長田区大橋町2丁目1-34

III. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

責任者 代表取締役社長 兎田 朗彦

担当者 業務部総務課 大西 正

連絡先 電話 078-611-2158 Fax 078-641-5856

IV. 事業の内容

産業分類：一般機械器具製造業

船舶関係の油圧及び電気・電子油圧式制御システム・機器の設計、製造、販売、サービス

下記自社開発製品を製造・販売。

1 大型船舶向け

甲板機械（デッキクレーン、カーゴクレーン、ウインドラス、ムアリングウィンチ、トーイングウィンチ等）の油圧及び電気・油圧式遠隔制御装置、バルブ開閉制御装置、他。

2 小型船舶向け

手動油圧操舵システム、アシスト式操舵システム、電気・油圧式動力操舵システム、オートパイロットシステム、エンジンリモコンシステム、姿勢制御システム、サイドスラスター制御システム、ウォータージェットコントロールシステム、エンジン制御盤、方位ディスプレイ、他。

3 その他開発依頼製品の設計・製作

V. 立地条件

工場敷地、周辺見取り図は11ページの「サイトの概略」を参照

VI. 事業の規模

主要製品出荷量	232.5トン
売上高（2007年5月21日～2008年5月20日）	1,674百万円
従業員数（2008年5月20日時点）	76名
本社・工場・倉庫 延べ床面積	7,309 m ²

3. 環境目標と実績

I. 主要な環境負荷の実績

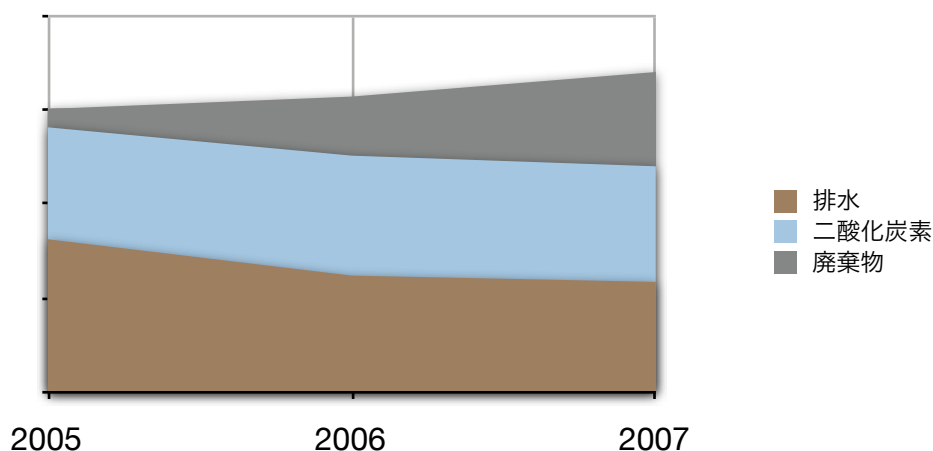
過去3年間の二酸化炭素、廃棄物排出量、総排水量

			2005年度	2006年度	2007年度	前年比
総製品生産量	総量	(ton/年)	218.7	234.3	232.5	-0.7%
二酸化炭素排出量	総量	(kg-CO ₂ /年)	462,612	439,886	416,669	-5.3%
	製品製造量当たり	(kg-CO ₂ /ton)	2,103	1,877	1,792	-4.5%
廃棄物排出量	総量	(ton/年)	51.4	55.0	59.2	7.5%
	製品製造量当たり	(kg/ton)	224.9	234.8	254.4	8.3%
総排水量	総量	(m ³ /年)	2,649	2,155	2,013	-6.6%
	製品製造量当たり	(m ³ /ton)	12.1	9.2	8.7	-5.9%

2005年のエコアクション取組開始以降3年間にわたり、二酸化炭素排出量及び総排水量は継続的に削減し、2007年度はそれぞれ総量で5%以上の削減を達成しました。唯一増加傾向にある廃棄物は、段ボール、金属くずなどリサイクル物の増加によるもので、それらを除いた最終処分廃棄物は28トンから25トンへ前年比10%の削減されました。

製品製造量当たりの排出量

製品製造量（1トン）当たりの主要な環境負荷の排出量も、総排出量と同様に廃棄物を除き、2年連続で減少しています。



II. 2007年度環境活動計画

目標項目	単位	2006年度	2007年度 目標		2007年度 実績			
		実績	目標	前年比	実績	前年比	達成率	評価
① 電力使用量	kW/h	731,858	709,902	-3.0%	682,768	-6.7%	104%	◎
② 自動車燃料使用量*	l	17,405	17,057	-2.0%	17,626	+1.3%	97%	△
③ 都市ガス使用量	m³	57,883	56,147	-3.0%	55,835	-3.5%	101%	○
④ 上水の使用量	m³	2,155	2,112	-2.0%	2,013	-6.6%	105%	◎
⑤ 産業廃棄物排出量	kg	45,440	45,440	0.0%	45,419	-0.1%	100%	○
⑥ コピー用紙使用量	kg	1,562	3,124	+100.0%	1,497	-4.2%	209%	◎

2007年度削減目標

2007年度の目標は下記内容に沿って設定しました。

①～④項目：継続した取り組みで前年度実績より削減。

⑤ 産業廃棄物排出量：増加傾向のため、目標値は据え置き。

⑥コピー用紙：営業管理システムの変更に伴い使用量増加が見込まれるため、目標引上げ。

その他に⑦一般廃棄物の削減、⑧化学物質の管理チェックポイント100%達成及び削減の取り組み推進を目標設定しています。

*自動車燃料使用量には灯油を含みます。

2007年度実績概略

②自動車燃料使用量を除く全ての項目で目標値を達成しました。特に「電力使用量」、「上水使用量」に関しては前年比5%以上削減することが出来ました。

2008年度削減目標に関して

目標項目	単位	2007年度	新 2008年度		旧 2009年度
		実績	目標	前年比	目標
① 電力使用量	kW/h	682,768	662,285	-3.0%	687,947
② 自動車燃料使用量	l	17,626	17,273	-2.0%	16,796
③ 都市ガス使用量	m³	55,835	54,160	-3.0%	54,473
④ 上水の使用量	m³	2,013	1,973	-2.0%	2,080
⑤ 産業廃棄物排出量	kg	45,419	45,419	0.0%	45,440
⑥ コピー用紙使用量	kg	1,497	1,497	0.0%	-

2007年度の実績を元に、2008年度目標を上方修正しました。これにより昨年設定した2009年度削減目標値をほぼ1年前倒しで目指すことになります。

III. 2007年度活動実績及び評価

① 電力使用量の削減

単位	2006年度	2007年度 目標		2007年度 実績		
	実績	目標	前年比	実績	前年比	達成率
kW/h	731,858	709,902	-3.0%	682,768	-6.7%	104%

取り組み：

●スイッチに「節電」シールを貼る。●昼休み一斉消灯。●冷暖房のこまめなオンオフ。●OA機器不使用時のスイッチオフ。●退社時の所轄電源元栓のオフ。●冷暖房切替時の出口温度調整。●実行状況のチェック

評価：◎

冷暖房及び機械設備が主要な電力使用源ですが、2007年度は夏冬の気候が穏やかだったためか、冷暖房にかかる電力が少なかったため、削減につながったと思われます。2008年度もこまめな節電を意識することで、削減を目指します。

② 自動車燃料使用量の削減（ガソリンと軽油）

単位	2006年度	2007年度 目標		2007年度 実績		
	実績	目標	前年比	実績	前年比	達成率
リットル	17,106	16,764	-2.0%	17,302	+1.1%	97%

取り組み：

●社有車運転時の運転日報（エコ運転チェックリスト）記入。●エコ運転の実践。●適切な車両管理。

評価：△

年間トータルでは前年の実績を上回り、今年度唯一目標を達成できませんでした。ただし、総走行距離は197,662 km から 204,091 km へ3.3%増えており、平均燃費は 11.56 km/l から 11.80 km/l へ2%向上しました。エコ運転の習慣が浸透したこと、車両の燃費性能向上などが貢献したと思われます。今後、車両変更時の省燃費車両導入や営業効率の向上により、燃料使用量の削減を目指します。

③ 都市ガス使用量の削減

単位	2006年度	2007年度 目標		2007年度 実績		
	実績	目標	前年比	実績	前年比	達成率
m ³	57,883	56,147	-3.0%	55,835	-3.5%	101%

取り組み：

●冷暖房切替時の装置出口温度調整により最適化。●冷暖房使用期間の短縮(窓を開ける)。●冷暖房機器の適切なメンテナンス。

評価：○

空調機器と乾燥炉が殆どの用途を占めます。穏やかな気候による空調使用量の削減と、雨が少なかったことによる乾燥炉の使用時間大幅短縮（121時間から 32時間へ減少）効果が大きかったと思われます。今後もこまめな機器のオンオフによる削減努力を継続することで、使用量の削減を目指します。

④ 上水の使用量の削減

単位	2006年度	2007年度 目標		2007年度 実績		
	実績	目標	前年比	実績	前年比	達成率
m ³	2,155	2,112	-2.0%	2,013	-6.6%	105%

取り組み：

●空調機器のこまめなオンオフ。●トイレ、洗面での節水。

評価：◎

都市ガスと同様に気候要因による削減が大きかったと思われます。今後も空調機器の点検調整、節水の啓蒙などによる削減活動により、削減の継続を目指します。

⑤ 産業廃棄物の削減

単位(Kg)		2006年度	2007年度 目標		2007年度 実績		
		実績	目標	前年比	実績	前年比	達成率
廃棄物 合計		45,444	45,440	0.0%	45,419	-0.1%	100%
内 訳	金属リサイクル	20,534	20,543	0.0%	23,419	+14.0%	86%
	最終処分	24,910	24,910	0.0%	22,000	-11.7%	112%

取り組み：

●産業廃棄物の分別徹底（塗装容器類、スクラップ、金属類などの分別）。●置き場の表示。●分別の徹底で、売却／リサイクルを増加する。

評価：○

目標通りの結果となりましたが、内訳は金属リサイクルが大幅に増加、最終処分が減少と相反する内容となりました。ただし、金属リサイクルには処分した生産機械（2.1トン）が含まれるため、通常のリサイクルは前年とほぼ同等の量となります。今後は一般廃棄物を含め、分別・リサイクルを推進していきます。

⑥ コピー用紙使用量の削減

単位	2006年度	2007年度 目標		2007年度 実績		
	実績	目標	前年比	実績	前年比	達成率
kg	1,562	3,124	+100%	1,497	-4.2%	209%

取り組み：

●コピー及びプリンターでの打ち出しを少なくする。●会議資料は最小限とし、電子文書を活用する。●両面コピーを徹底する。●片面使用済み紙の再利用を推進する。

評価：◎

当初は営業システム変更に伴う伝票の専用紙からコピー用紙への変更により、使用量が大幅に増加するとの想定で目標値を2倍に設定しました。実績でも営業のA4紙使用量は2005年度8箱、2006年度21箱、2007年度30箱と大きく増加しました。しかし他部署で大きく削減した結果、総使用量は前年並みとすることが出来ました。

⑦ 一般廃棄物の削減

単位	2006年度	2007年度 目標		2007年度 実績		
	実績	目標	前年比	実績	前年比	達成率
kg	7,187	7,187	0.0%	10,790	+50.1%	50%

取り組み：

- 分別を徹底し、リサイクル品を増加する。
- 分別基準：OA紙、OA紙以外（チラシ、パンフレット等）、新聞紙、雑誌類、段ボール。

評価：△

2007年度は焼却書類などの最終処分される廃棄物は殆どなく、紙類廃棄物の削減及び分別も段ボールを除き、順調に進めることが出来ました。但し、段ボールに関しては納入品の梱包・緩衝材に使われる段ボールの増加、海外からの調達増加に伴う段ボール梱包の増加などにより大きく増える結果となりました。今後は納入業者に協力を依頼し、通函の利用促進などが必要と思われます。

⑧ 化学物質管理9ポイントの100%達成

管理ポイント：

- PCBの保管・管理・届け出、•MSDSの完備、•特定化学物質の使用量集計（3ヶ月毎）、•排出基準を超えた場合の届け出、•塗料・溶剤・洗剤の購入・使用・管理に関する下記5ポイント。
 - 危険物倉庫に保管、適正量を小出しする。
 - 当用買い、不要なストックをしない。
 - 塗料・溶剤等の缶は必ずフタをする。
 - 塗料・溶剤は使い切る。
 - 廃缶は所定の場所に保管する。

評価：○

作業現場での定期的なチェックリスト確認や、安全パトロールなどを通して化学物質の管理が徹底されていることを定期的に確認できました。

4. 環境関連法規制及びその他の 要求事項の順守状況

I. 環境関連法規制に関して

EA21環境経営システムマニュアルにおいて、環境関連法規制の取りまとめ・順守チェックリストを作成し、定期的に見直し、チェックを実施し、違反があった場合は是正する仕組みを機能させています。

II. 関係機関等からの環境関連法規制に関して

指導、指摘等はありませんでした。また訴訟もありませんでした。

5. 適用範囲

I. 対象組織

〒653-0037 神戸市長田区大橋町2丁目1-34、1丁目5

マロール株式会社 本社・工場・倉庫

最寄り駅：JR・市営地下鉄「新長田」駅より南東に徒歩5分。

II. 対象活動

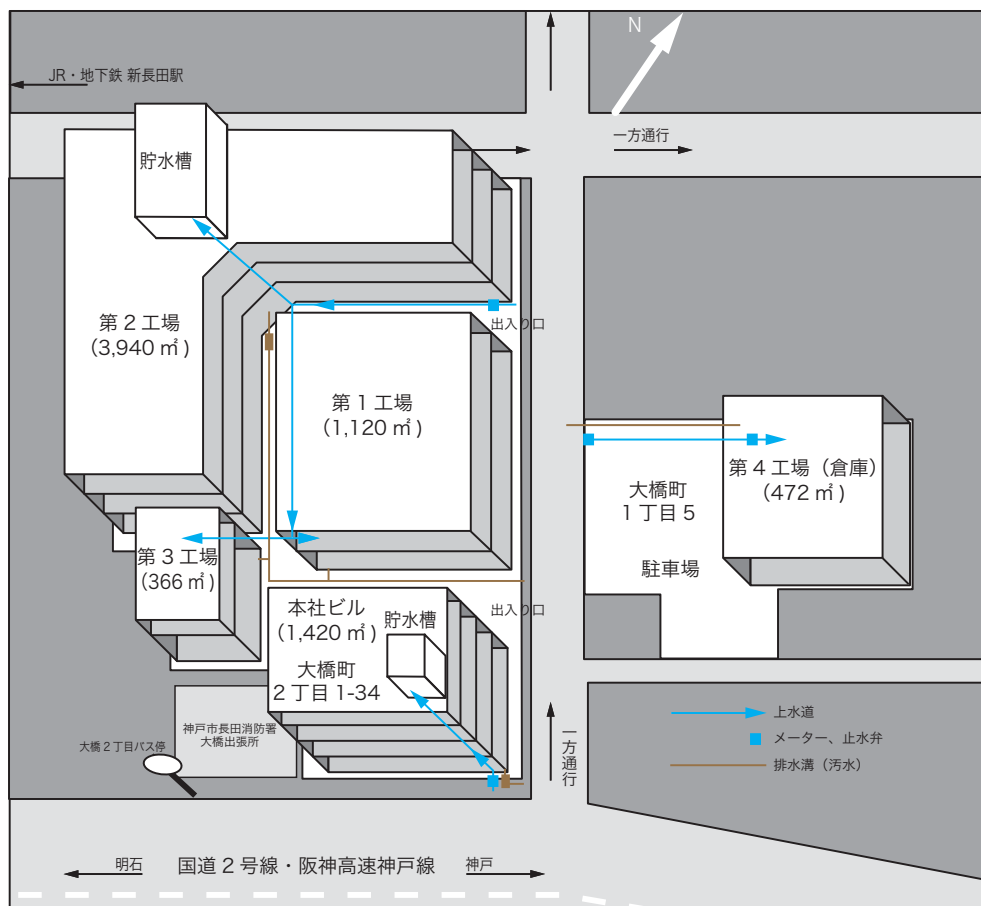
油圧・電子制御機器の設計・製造・販売・製品・サービスに係わる全ての環境負荷。

III. 対象要員

組織内で働くパート・アルバイトを含む全ての従業員。

但し、他の組織に所属する人には適用しない。

IV. サイトの概略





マロール株式会社

〒653-0037

神戸市長田区大橋町2丁目1番34号

tel : 078-611-2158

fax : 078-641-5856

<http://www.marol.co.jp>